

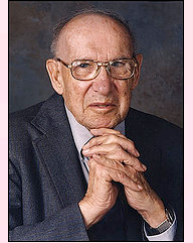
社長の頭の中

The Truth of management

by Hiromasa Hidari

ドラッカー名言録

「生産性の本質を測る真の基準は量ではなくて、質である」



(裏面に解説！)

VOL.76. 2012. 11月号

『それ』の価値

スイッチ ON!! とうとう! 一年かけて 12 月 9 日 第二回介護甲子園決勝大会が、開催されます!
たくさんの想いを乗せて、ひとつの目的に向かうことに「青春の汗」みたいで楽しみながら進めています!
当日を迎えた後の達成感でたくさんの人が成長します! そして、介護業界の成長につながります!

さて、たくさんの事柄にアンテナを立てているので、商売のいろんないいことや悪いことに目がいき、そして感じるが多々あります。世の中いろんなことがあります、生きていくうえでは起こること全ては自分の成長につながる材料になりますね! とは言いつつ、イライラしてしまうことも、それ違うやろう〜ってこともあります。言葉の解釈が違い、食い違うときもあります。しかし、そんな世の中でひとつ言えることは、お金を出す以上気分を損ねて損をするのは必ず「客」だということです。

働いている側はたくさんのリスクが付きまとうものです。

しかし、そこで働いて給料を頂く時点で、そのリスクに対する報酬を頂いている訳でもあります。

一方、お客さんはわざわざ多くのライバルの中から、「それ」を選んでお金を使うわけですから。

お金をもらう側は最低限、お金に見合う価値を渡して当然です。

では、「それ」の差はどこで決まるか?? それは2つしかありません。

「場所」が便利か、もしくは「それ」自体に価値を感じて、わざわざでも「それ」を目当てに行くか??

あなたの仕事では「それ」を誰よりも明確に必要とされる自信はありますか??

「それ」を誰よりも価値の高いものと感じさせていますか??

「それ」を高める人材ではなく、人財として提供できていますか??

私は、事業もしながら、客のプロフェッショナルでもあります。あなたもそうです!

お金を払うまでに常に感謝するくらい感動していますか??

常に納得してお金を払って、つい「ありがとう」と言ってしまうていますか??

お金を払った後、常に満足してロコミしていますか??

そうでないなら、誰かがそれを怠っているんです。

誰かが自分の体調のせいや会社のせいで適当な仕事をしているのに出くわして、

運悪く対価以下のお金を払わされているんです。

人生や仕事は本来、人を喜ばすことに意味があります。

志事の給料とは、労働時間でもらう「労働対価」ではなく相手をどれだけ感動させられたかの「感動対価」で頂くべきです。

【 働くとは、傍(はた)の人を楽にすることである 】


あなたの仕事や人生での行動の「それ」は、他人様の価値観にどう必要とされるか?

人に尊敬されるくらいのものか、人に応援されるくらいのものか、人に助けてもらえるくらいのものか、人に喜んでもらえるくらいのものか?

人に相手にされないくらいのものか、人に怒られるくらいのものか、人に軽蔑されるくらいのものか?

あなたは間違いなく「それ」のほうを選ぶと想います。あなたの「それ」しっかり価値あるものに出ていますか??



フェイスブック始めました。左 敬真 
お友達申請お待ちしております。

